

## 煙に境界線はありません! パパのたばこの影響

受動喫煙を防ごう!!

たばこの煙には、喫煙者が直接吸い込む煙「主流煙」と、火のついた先から立ち上る煙「副流煙」があります。たばこを吸わなくても周囲に吸う人がいると、副流煙を吸ってしまうことになり、これを受動喫煙といいます。副流煙には、主流煙よりも高い濃度で多くの有害物質が含まれています。さらに、喫煙者を口から吐き出す呼出煙も有害です。



※非燃焼・加熱式たばこや電子たばこについては、日本呼吸器学会が「ニコチンや他の有害物質を吸引する製品であり、使用者にとっても、受動喫煙させられる人にあっても、使用は推奨できない」との見解を出しています。

## たばこマイライラ(ストレス)解消ってホント? ニコチン依存症

その「マイライラ(ストレス)」はニコチン切れによるニコチン依存症です。  
たばこに含まれているニコチンは麻薬と同じ様の依存性薬物です。

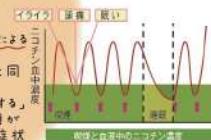
たばこ(ニコチン)が切れると「マイライラする」「落ち着かない」「からだがだるい」「目が覚めない」などいろいろな不快な身体症状を引き起こします。  
喫煙者がたばこを吸ってほっとするという状況とは、ニコチン切れの身体にニコチンが入ることによる充足感なのです。

「ストレス解消」と思っているのは、じつはたばこによって作られたストレスを次のたばこによって解消しているだけだから、禁煙することでマイライラから解放されます。

子育てや仕事、対人関係等のストレスはたばこでは解決しません。

## こんなにある 禁煙のメリット

- 顔が若返る、歯ぐきや唇の色が鮮やかに、萎縮・歯周病が戻る
- 味覚・食欲が改善する、舌がおいしく食べられる
- 家がおいしい臭い、カーテンの匂い、窓のくすみの改善
- 火災の心配が減る
- 出費(たばこ代)が減る
- お子さんの身体・知能など様々な成長・発達への悪影響が防げる



## 禁煙治療

禁煙治療には健康保険が使えます。(一定の条件に該当する必要があります)  
たばこやめられないのは、「病氣」にかかるから、という考え方のもと、2006年4月から医療機関で保険による治療が受けられるようになりました。なかなか禁煙できないのは、たばこの中に含まれているニコチン、アルコールやシンナーのような依存性があるためなのです。

2016年4月から保険適用の条件が緩和(※)され、若年層も健康保険に適用し禁煙治療を受けやすくなりました。2020年度からは加熱式たばこ使用者も健康保険による禁煙治療の対象となりました。20代・30代のうちから積極的に禁煙に取り組みましょう。

※35歳未満の場合、「1日禁煙本数×喫煙年数=200以上」の条件が除外

### Q1: 何んで治療をするの?

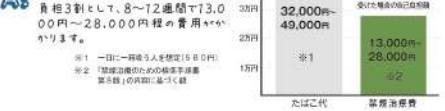
A8

受診時期	治療内容	
	禁煙治療のための条件の確認	禁煙治療
初回診療	①診察	
再診1 (2週間後)	②喫煙一酸化炭素濃度の測定	
再診2 (4週間後)	③禁煙実行、継続に向けてのアドバイス	
再診3 (8週間後)	④禁煙補助薬の処方(貼り薬や飲み薬)	
再診4 (12週間後)		



### Q2: 費用はいくらくらいなの?

A8



### Q3: どの病院でも保険を使えるの?

A8

禁煙治療の経験を有する医師4名以上勤務していること等の要件を備えた病院で治療を受ける必要があります。

一般社団法人日本禁煙学会のホームページに、禁煙治療に保険が適用できる千葉県内医療機関の一覧が掲載されていますので御参考ください。

## 知っておきたい 「たばこと健康について」

自分のために、愛する人のために



千葉県健康福祉部健康づくり支援課

チーバくん

## 喫煙するとどうなるの? Q&A

### Q: 喫煙はからだに悪いの?

A: たばこの煙には5,300種類以上の化学物質が含まれ、喫煙性があると報告されている物質も約70種類存在しています。

また、近年世界的に広がってきてる無煙たばこについても、使用者への健康被害が指摘されています。

### Q: 加熱式たばこもからだに悪いの?

A: たばこ葉やその加工品に電気的に加熱し、発生させた煙を吸人するたばこ製品を加熱式たばこといいます。

近年、加熱式たばこは、喫煙者本人及レ周辺への健康影響や臭いなどが懸念されることが多いという期待から、使い始めを方がいますが、加熱式たばこにもニコチン等の有害物質が多く含まれています。

### Q: 未成年から喫煙している?

A: 未成年者の喫煙は、成長に悪い影響を及ぼすばかり、身体に酸素が十分に行き渡らず、持久力の低下をもたらします。また、たばこを吸い始めた年齢が若いほど、ニコチン依存になりやすく、がんや心臓病などの危険度も高まります。

### Q: 吸い続けるとどうなるの?

A: 喫煙は、がんの原因になることは広く知られていますが、喫煙を続けることによって様々な病気のリスクが高まります。

がん以外では、COPD(慢性閉塞性肺疾患)や気管支炎などの呼吸器系の病気を引き起こすだけでなく、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの胃腸の病気、歯周病、種痘病などにかかりやすくなります。喫煙は動脈硬化の進行を早めると働きがあるため、狭心症や心筋梗塞、脳卒中など、心臓や血管にかかる病気の死への危険度を引き上げます。

### Q: COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、どんな病気?

A: COPDの原因としては、50%~80%たばこの煙が原因といわれ、重症化するリスクの動きでも見切れてしまい、酸素吸入が必要になると、生活に大きな影響がでます。

COPDは、たばこの煙に含まれる有害物質によって、気管支が炎症を起こして狭くなり、酸素を取り込む細胞が壊され、呼吸がしにくくなります。壊れてしまふ細胞は元には戻りませんが、治療をすることによって進行を遅らせたり、症状を和らげることができます。

### 該当することはありませんか?



予防も治療も、まずは禁煙

## こんなにあるの? 妊娠中のたばこの害

妊娠中の喫煙によって、胎児に多くの影響が見られます。また、お母さん自身にもさまざまな妊娠合併症のリスクを増大させます。



\*産褥期死とは、妊娠22週以降に死産したり、生後1週未満に新生児が死亡すること。

\*非燃焼・加熱式たばこや電子たばこについては、日本呼吸器学会が「ニコチンや他の有害物質を吸引する製品であり、使用者にリスクも、受動喫煙させられる人にリスクも、使用は推奨できない」との見解を出しています。

## 子育て中も続くの? 育児中のたばこの害

子育て中の喫煙によって、お子さんの成長発達に影響が見られる他、病気が増えたり、事故の原因にもつながります。

